

ヘブル人への手紙 13:12-21

神の御心を行う

13:12 ですから、イエスも、ご自分の血によって民を聖なるものとするために、門の外で苦しみを受けられました。13:13 ですから、私たちは、キリストのはずかしめを身に負って、宿営の外に出て、みもとに行こうではありませんか。13:14 私たちは、この地上に永遠の都を持っているのではなく、むしろ後に来ようとしている都を求めているのです。13:15 ですから、私たちはキリストを通して、賛美のいけにえ、すなわち御名をたたえるくちびるの果実を、神に絶えずささげようではありませんか。13:16 善を行うことと、持ち物を人に分けることとを怠ってはいけません。神はこのようないけにえを喜ばれるからです。13:17 あなたがたの指導者たちの言うことを聞き、また服従しなさい。この人々は神に弁明する者であって、あなたがたのたましいのために見張りをしているのです。ですから、この人たちが喜んでそのことをし、嘆いてすることにならないようにしなさい。そうでないと、あなたがたの益にならないからです。13:18 私たちのために祈ってください。私たちは、正しい良心を持っていると確信しており、何事についても正しく行動しようと願っているからです。13:19 また、もっと祈ってくださるよう特にお願いします。それだけ、私があるあなたがたのところに早く帰れるようになるからです。13:20 永遠の契約の血による羊の大牧者、私たちの主イエスを死者の中から導き出された平和の神が、13:21 イエス・キリストにより、御前でみこころにかなうことを私たちのうちに行い、あなたがたがみこころを行うことができるために、すべての良いことについて、あなたがたを完全な者としてくださいますように。どうか、キリストに栄光が世々限りなくありますように。アーメン。

はじめに

8月から、神様の全ての約束は全ての神の子どもの為にある、と言うテーマに沿って御言葉を一緒に見て来ました。その目的は皆さんの信仰が励まされるためであると同時に、神様の約束を出来るだけ暗記して頂きたいためです。信仰生活の戦いの中でそれがとても大切な事なのです。

コロサイ3:15-16 「キリストの平和が、あなたがたの心を支配するようにしなさい。そのためにこそあなたがたも召されて一体となったのです。また、感謝の心を持つ人になりなさい。

3:16 キリストのことばを、あなたがたのうちに豊かに住ませ、知恵を尽くして互いに教え、互いに戒め、詩と賛美と霊の歌とにより、感謝にあふれて心から神に向かって歌いなさい。」

キリストの言葉を豊かに心に住ませる事と、キリストの平和・平安が心を支配する事が深くつながっています。神の約束を信仰の大盾として使えば悪魔の嘘の訴えを消すことが出来ます。今日の聖書箇所は2週間前の説教でも一緒に見ましたが、その際には、一番基本的で一番大切な約束として、特に新しい契約の「完全な罪の赦しの約束」について学びました。今日も、またこの箇所を通して別の神の約束と一緒に見ていきたいと思えます。まずはこの箇所に書いてあるイエス様の模範を見て大切な事を学びましょう。

1. 神の御心を行う犠牲。(12-14節)

13:12 「ですから、イエスも、ご自分の血によって民を聖なるものとするために、門の外で苦しみを受けられました。

13:13 ですから、私たちは、キリストのはずかしめを身に負って、宿営の外に出て、みもとに行こうではありませんか。13:14 私たちは、この地上に永遠の都を持っているのではなく、むしろ後に来ようとしている都を求めているのです。」

「神の御心を行う犠牲」について話すとき、まずはっきりしておかなければならないのは、私達がイエス様の完全な救いに何かを付け加える必要があるという意味ではない、ということです。イエ

ス様は身代わりになって私達の救いの為に全てを払って下さったのです。その点は誤解をしないで頂きたいと思います。

エペソ人2:8-10「あなたがたは、恵みのゆえに、信仰によって救われたのです。それは、自分自身から出たことではなく、神からの賜物です。

2:9 行ないによるものではありません。だれも誇るものがないためです。

2:10 私たちは神の作品であって、良い行ないをするためにキリスト・イエスにあって造られたのです。神は、私たちが良い行ないに歩むように、その良い行ないをもあらかじめ備えてくださったのです。」

救われる事、信仰は恵みの賜物としてイエス様から与えられています。私たちは救われてから、私たちのために予め備えていただいた、神様の栄光になる良い行いを歩む事が出来るようになります。信仰によって神様の栄光を現わす生き方をする為には犠牲を払う必要があります。犠牲を払うのは救われる為ではありません。

聖書では信仰によって歩むことについて「信仰の戦いを勇敢に戦いなさい」と書いてありますから、それは決して楽なことではありません。今日の箇所はまず最初に、イエス様の信者は皆、例外なく十字架を負ってついて行くように、と勧めています。十字架は楽なものではなく必ず犠牲が伴うものです。ですが、覚えておかなければならないのは、心に溢れる平安と喜びを十字架によって与えられるということです。

今日の箇所の「イエスは門の外で苦しみを受けられましたから、私達もキリストのはずかしめを負って宿営の外に出てみもとに行こうではありませんか。」にあるように、イエス様について行く為に、一部の人から除け者扱いを受けたり、嫌われたりする覚悟もしなければなりません。最初はそれが自分の家族かも知れません。でも、多くのクリスチャンの経験から言えることは、それは一時的な事で、イエス様に忠実に、イエス様を第一にすれば後から家族の救いにつながる事が多くあります。逆に十字架の犠牲を避ける為にイエス様の信仰を隠してしまうと、自分自身は救いの確信や勝利を持つ事が出来ないし、家族も含めて他の誰も救われません。

次のようなイエス様の厳しい言葉があります。

マタイ10:32-36。「ですから、わたしを人の前で認める者はみな、わたしも、天におられるわたしの父の前でその人を認めます。10:33 しかし、人の前でわたしを知らないと言うような者なら、わたしも天におられるわたしの父の前で、そんな者は知らないと言います。

10:34 わたしが来たのは地に平和をもたらすためだと思っただけではありません。わたしは、平和をもたらすために来たのではなく、剣をもたらすために来たのです。10:35 なぜなら、わたしは人をその父に、娘をその母に、嫁をそのしゅうとめに逆らわせるために来たからです。10:36 さらに、家族の者がその人の敵となります。」

この話の前に30節には「あなたがたの頭の毛さえも、みな数えられています。だから、恐れる事はありません。」とあります。

神様の主権の中で許されていることなので、神様は耐えられないような事が起こることは許されません。先週のメッセージでも言いましたが、イエス様は唯一の、本当の平和をつくる方です。神様を知らないこの世の偽の平和に剣をもたらしめます。たとえば、「出る杭は打たれる」のような強制的な調和が本当の平和ではありません。神様と真実なくして本当の平和になる事はあり得ません。イエス様のつくる平和は赦しと和解に基づいた本当の永遠の平和です。先週の最後の言葉は「平和をつくる者は幸いです、その人は神の子どもと呼ばれるからです。」でしたが、それはその人に平和の福音の和解の言葉が与えられているからです。

2. 神の御心を行う喜び (V15-16)

13:15 「ですから、私たちはキリストを通して、賛美のいけにえ、すなわち御名をたたえるくちびるの果実を、神に絶えずささげようではありませんか。

13:16 善を行なうことと、持ち物を人に分けることとを怠ってはいけません。神はこのようにいけにえを喜ばれるからです。」

先ほど言いましたが、十字架には必ず犠牲が伴いますが、それに耐えて神様の御心を行うことで神は最高の喜びを与えて下さいます。それがイエス様自身も持っておられた喜びです。その喜びは何でも乗り越えられるように力になってくれます。

ヘブル人**12:1** 「こういうわけで、このように多くの証人たちが、雲のように私たちを取り巻いているのですから、私たちも、いっさいの重荷とまつわりつく罪とを捨てて、私たちの前に置かれている競走を忍耐をもって走り続けようではありませんか。

12:2 信仰の創始者であり、完成者であるイエスから目を離さないでいなさい。イエスは、ご自分の前に置かれた喜びのゆえに、はずかしめをものともせず十字架を忍び、神の御座の右に着座されました。」

信仰生活が長距離マラソンと比べられています。短いダッシュではありませんから、辛抱強い人になる為に力が必要です。イエス様は信仰の創始者でもあり完成者でもありますから、自分の力ではなくて、イエス様が最後まで走り続けるような力を与えて下さいます。誰も自分からこの信仰を持っていないのと同じように、自分の力だけで完成する事も出来ません。これが今日の尊い素晴らしい約束です。後でそれに戻ってお話したいですが、イエス様の喜びについてももう少し見てみましょう。

ヨハネ**15:11** 「わたしがこれらのことをあなたがたに話したのは、わたしの喜びがあなたがたのうちにある、あなたがたの喜びが満たされるためです。」 私がこれらの事を話したと言うのは**7-8** 節に書いてあります。

15:7 「あなたがたがわたしにとどまり、わたしのことばがあなたがたにとどまるなら、何でもあなたがたのほしいものを求めなさい。そうすれば、あなたがたのためにそれがかなえられます。

15:8 あなたがたが多くの実を結び、わたしの弟子となることによって、わたしの父は栄光をお受けになるのです。」

私達は元々神様の形に似せられてつくられた存在なので、私たちの最大の目的は神様に栄光を返す事です。罪によってそれが出来なくなってしまったのですが、イエス様の救いによって元通りの立場に戻していただいています。イエス様にとどまるなら、その御言葉が自分にとどまるなら、御心に沿って祈ることが出来るので、それが全て聞かれている最高の喜びで満たされます。それが、神様の栄光を現わす、実を結ぶ方法です。

ペテロ第一**2:9** 「しかし、あなたがたは、選ばれた種族、王である祭司、聖なる国民、神の所有とされた民です。それは、あなたがたを、やみの中から、ご自分の驚くべき光の中に招いてくださった方のすばらしいみわざを、あなたがたが宣べ伝えるためなのです。」

一部の人から除け者扱いを受けても、私たちはその代わりに最高の国籍を与えています。「あなた方の名前が天に書いてある事を喜びなさい。」とイエス様は弟子達に教えました。最高の国籍を与えられると同時に祈りが聞かれる最高の喜びも与えられます。神様の御心を行う喜びです。

3. 神の御心が全うされる約束(20-21節)

13:20 「永遠の契約の血による羊の大牧者、私たちの主イエスを死者の中から導き出された平和の神が、**13:21** イエス・キリストにより、御前でみこころにかなうことを私たちのうちに行い、あなたがたがみこころを行うことができるために、すべての良いことについて、あなたがたを完全な者として下さいますように。どうか、キリストに栄光が世々限りなくありますように。アーメン。」
この箇所を厳密に解釈すれば、そこには約束ではなくて、祈りしか書いていないと言う人もいるかも知れません。そうとも言えますが、他の聖書の箇所と一緒に解釈すれば、同じことが約束の形でも書いてあります。

ピリピ**1:6** 「あなたがたのうちに良い働きを始められた方は、キリスト・イエスの日が来るまでにそれを完成させてくださることを私は堅く信じているのです。」

何を約束して下さっているかと言いますと、神様は真実な方なので、私達の弱さや失敗の為に決して諦めないで、途中で見捨ててしまう事なく約束を最後まで絶対に守ってくださると言うことです。ヘブル人の手紙**13:20-21**の御言葉の内容は最後まで見捨てないでともにて下さると言うことだけではありません。あなたがたの内に働いて、「あなたがたがみこころを行うことができるために、すべての良いことについて、あなたがたを完全な者」として下さるのです。それをキリストの十字

架の血による永遠の契約によって保証して下さっています。同じ13章の少し手前の箇所にも、同じ意味の事が書いてあります。

13：5-6「金銭を愛する生活をしてはいけません。いま持っているもので満足しなさい。主ご自身がこう言われるのです。「わたしは決してあなたを離れず、また、あなたを捨てない。」

13:6そこで、私たちは確信に満ちてこう言います。「主は私の助け手です。私は恐れません。人間が、私に対して何ができましょう。」

「決してあなたを離れず、またあなたを捨てない。そこで私達は確信に満ちてこう言います。主は私の助け手です。私は恐れません。人間は私に対して何が出来ましょう。」それに対する答えは当然、何も出来ません。ですから、もう一度言いますが、神様は一人で戦っている姿を何もしないで見る為にそばにいてくれるのではありません。最強の味方として必要な力と全ての必要な物を与えて、責任をもって全てを完成させて下さいます。

12章1-2節でも既に見ましたが、イエス様は私達の信仰の創始者でもあり完成者でもあります。人間は誰もこの信仰を自分から持っている人はいないし、自分から信仰を守る事が出来る人もいません。ヘブル**7:25**「したがって、ご自分によって神に近づく人々を、完全に救うことができになります。キリストはいつも生きていて、彼らのために、とりなしをしておられるからです。」

これは完全に救って下さる約束です。

昔、イエス様が弟子ペテロにも言われたように、今日私達にも言っています。「しかし、わたしは、あなたの信仰がなくならないように、あなたのために祈りました。だからあなたは、立ち直ったら、兄弟たちを力づけてやりなさい。」

立ち直ったら、という部分は、ペテロが失敗してキリストを**3度**も否定する前からイエス様はそれをご存知で、立ち直らせる約束をしておられたのです。

イエス様の執り成しの祈りは最強です。日本全国の祈禱師や全世界の祈禱師の祈りを自分の為に集める事が出来たとしてもイエス様の祈りとは比べ物になりません。イエス様を信じる人は最強の味方と最強の祈りを自分のものにしていきます。

まとめ

私達は自分の中で神様の御心が全うされる時に、何か大きい働きが出来るようになると考えがちですが、聖書ではそれを最大の目的としていません。

ローマ人**8:28-29**。「神を愛する人々、すなわち、神のご計画に従って召された人々のためには、神がすべてのことを働かせて益としてくださることを、私たちは知っています。

なぜなら、神は、あらかじめ知っておられる人々を、御子のかたちと同じ姿にあらかじめ定められたからです。それは、御子が多くの兄弟たちの中で長子となられるためです。」

自分の人生で起きた事を全て神が計画の中で最善に導かれる目的は、御子の形と同じ姿に変えられる為です。それが元々つくられて命を与えられた目的でもありますし、イエス様を信じるように召されて救われている目的でもあります。それがどのような働きをしても、神様の栄光を現わすということなのです。

コリント第二**3:17-18**「主は御霊です。そして、主の御霊のあるところには自由があります。 **3:18** 私たちはみな、顔のおおいを取りのけられて、鏡のように主の栄光を反映させながら、栄光から栄光へと、主と同じかたちに姿を変えられて行きます。これはまさに、御霊なる主の働きによるのです。」これが全てのイエス様の信者に約束されています。